

2022年1月8日

2022年救済費・コロナ救済費の申請について

(一財)東京大学運動会
総務部会計局
中嶋 英美子

(1)救済費・コロナ救済費の予算配分について

予算配分はslackでの調査を基に、救済費60万円、コロナ救済費190万円で施行いたします。調査へのご協力ありがとうございました。

(2)救済費申請書について

会計局への申請は、添付の申請書を使用してください。青色のセルが入力欄となっていますが、入りきらない場合は入力内容が分かるように適宜編集してください。なお、申請書には以下の項目があります。

①来年度に財源が不足する理由

i. 申請理由

- a. 予算制度改革による財源不足
2017年度予算よりも2022年度必要費予算の方が低い必要があります。予算額が分からない場合はslackにてお問い合わせください。
- b. 2021年の大型出費に伴う財源不足
2021年1月~12月の出費であり、必要費に計上される項目である必要があります。

ii. iの内容の詳細

財源不足の状況の詳細を書いてください。

bを理由としている場合はそれに加えて、大型出費の対象(備品購入の場合は名前と用途)、支払い時期、出費の必要性を書いてください。なるべく具体的に教えていただくと審査がしやすくなります。

iii上記にかかった費用

この質問はbを理由に含む部活のみ回答してください。臨時の高額出費が複数件ある場合は案件ごとに記入してください。記入欄が足りない場合はご自身で編集してください。

② 運動会からの支給金以外の財源について

i. 部費

部員1人あたりの1年間の部費を教えてください。

ii. 部員以外からの財源

部員以外からの財源が収入全体に対して占めた割合を、2021年分について、大凡でもよいので項目ごとに記入してください。財源の例としては、OB・OG会費や協賛が挙げられます。記入欄が足りない場合はご自身で編集してください。

iii部費以外の個人負担で考慮して欲しい出費について

部費以外で個人が負担しているもので考慮して欲しいことがありましたら、出費の説明とその金額目安を記入してください。申請項目の出費のために、部費と別に追加徴収を行わねばならない等の事情がある場合もこちらに金額目安をお願いいたします。これについては、必要費の基準よりも広く考慮するつもりですので、希望があれば全てご記入ください。ただし、個別判断となりますので、反映されないものもある可能性は予めご了承ください。

③財政改善における努力について

特にaを申請理由とする部は回答してください。前述したとおり、予算制度改革に伴う衝撃緩和対策という名目での救済費の支給は導入から5～10年で廃止されます。また、運動会全体の予算枠も減少傾向にあります。各部での財政改善における努力についても記入していただきたいと考えています。

④その他考慮して欲しい事情

①～③の内容だけでは分からない事情、競技や部活特有の事情で考慮して欲しいことがある場合は記入してください。こちらに関しましても個別判断となりますので、反映されないものもある可能性は予めご了承ください。

⑤その他の添付資料の準備

下記の【会計資料について】を確認し、必要に応じてその準備を行ったかのチェックを行ってください。また、会計資料の提出に該当する申請理由であるが、その提出が不可能な場合には、【会計資料について】に従って文章を記入してください。

【救済費会計資料について】

公正な審査・不正申告防止のため、bを申請理由とする場合は、可能な限り、該当の出費を証明する会計資料をスキャンもしくは写真にとりPDF化したものを提出してください。複数ある場合は一つのファイルにまとめ、①iiiの出費項目と会計資料が照合できるように工夫してください。会計資料の例として、領収書・請求書・見積書・帳簿の一部が挙げられます。原本ではなくコピーしたものでも可能です。尚、領収書等の宛名に、決算報告書のように「東京大学運動会」を含んでいる必要はありません。ただし、出費時期から1年以上経っている場合もあることや、事前に提出の可能性を明示していなかったことも考慮し、何らかの理由で提出が不可能である場合は、その旨を⑤その他の添付資料の準備に記入してください。また、提出が不可能であり、①ii,iiiまたは⑤での記載が不十分、もしくは不正が疑われる際には、こちらから確認する場合や審査対象とならない場合がありますのでご注意ください。

(3)コロナ救済費申請書について

①来年度に財源が不足する理由

i. 申請理由

a. 感染症対策のための大型出費に伴う財源不足

2021年1月～12月の出費である必要があります。必要費に計上されない項目も含まれます。

b. 新型コロナウイルスの影響による必要費支給額の減少

2021年度予算よりも2022年度必要費予算の方が低い必要があります。予算額が分からない場合はslackにてお問い合わせください。

i. 申請内容の詳細

財源不足の状況の詳細を書いてください。

aを理由としている場合はそれに加えて、出費の対象(備品購入の場合は名前と用途)、支払い時期、出費の必要性を書いてください。コロナとの関係を明確に、なるべく具体的に教えていただけると審査がしやすくなります。

ii. 上記にかかった費用

この質問はaを理由に含む部活のみ回答してください。出費が複数件ある場合は案件ごとに記入してください。記入欄が足りない場合はご自身で編集してください。

② 運動会からの支給金以外の財源について

i. 部費

部員1人あたりの1年間の部費を教えてください。

ii. 部員以外からの財源

部員以外からの財源が収入全体に対して占めた割合を、2021年分について、大凡でもよいので項目ごとに記入してください。財源の例としては、OB・OG会費や協賛が挙げられます。記入欄が足りない場合はご自身で編集してください。

iii部費以外の個人負担で考慮して欲しい出費について

部費以外で個人が負担しているもので考慮して欲しいことがありましたら、出費の説明とその金額目安を記入してください。申請項目の出費のために、部費と別に追加徴収を行わねばならない等の事情がある場合もこちらに金額目安をお願いいたします。これについては、必要費の基準よりも広く考慮するつもりですので、希望があれば全てご記入ください。ただし、個別判断となりますので、反映されないものもある可能性は予めご了承ください。

③その他考慮して欲しい事情

①・②の内容だけでは分からない事情、競技や部活特有の事情で考慮して欲しいことがある場合は記入してください。こちらに関しましても個別判断となりますので、反映されないものもある可能性は予めご了承ください。

④その他の添付資料の準備

下記の【会計資料について】を確認し、必要に応じてその準備を行ったかのチェックを行ってください。また、会計資料の提出に該当する申請理由であるが、その提出が不可能な場合には、【会計資料について】に従って文章を記入してください。

【コロナ救済費会計資料について】

公正な審査・不正申告防止のため、aを申請理由とする場合は、可能な限り、該当の出費を証明する会計資料をスキャンもしくは写真にとりPDF化したものを提出してください。複数ある場合は一つのファイルにまとめ、①iiiの出費項目と会計資料が照合できるように工夫してください。会計資料の例として、領収書・請求書・見積書・帳簿の一部が挙げられます。原本ではなくコピーしたものでも可能です。尚、領収書等の宛名に、決算報告書のように「東京大学運動会」を含んでいる必要はありません。ただし、出費時期から1年以上経っている場合もあることや、事前に提出の可能性を明示していなかったことも考慮し、何らかの理由で提出が不可能である場合は、その旨を④その他の添付資料の準備に記入してください。また、提出が不可能であり、①ii,iiiまたは④での記載が不十分、もしくは不正が疑われる際には、こちらから確認する場合や審査対象とならない場合がありますのでご注意ください。

(4) 申請について

救済費・コロナ救済費の申請を希望する部は、Googleドライブの各部提出フォルダ(リンクは、各部チャンネルに記載)内の、「番号部活名.D.2022」のフォルダにアップロードしていただき、slackの各部チャンネルにてその旨をお伝えください。フォルダが見つからない場合はご連絡ください。申請に関して不明点やご相談がある場合は、各部のチャンネルでお問い合わせください。期間が短く恐縮ですが、締め切り日は【1月18日(火)】とします。よろしくお願いいたします。